

【R 5 年度】重点目標の取組・概要（授業支援ソフトの導入[ICT教育推進事業]）

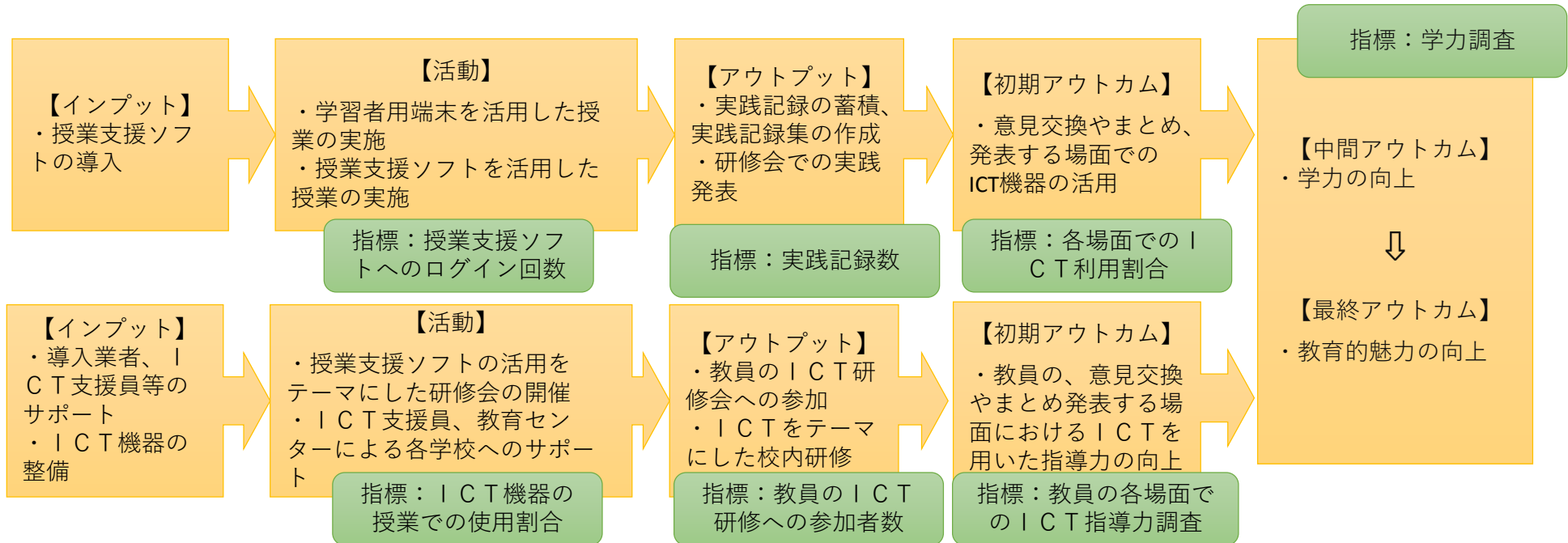
担当課（内線）	学校教育課（5616）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	データを活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
・児童生徒の学習者用端末の整備が進められ、授業におけるICT機器の活用場面は大幅に増加しており、今後より一層効果的な活用が必要である ・ICT機器を使った授業改善や主体的・対話的で深い学びを促進するためにも、授業支援ソフトを活用した協働学習や発表の場の創出などが求められている	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・授業において、意見交換やまとめ発表などでのICT機器の活用を促進し、主体的・対話的で深い学びの実現を進める（週1回以上、90%以上） 【成果に向けての各年度の進め方】 ・導入する授業支援ソフトを活用し、授業改善、主体的・対話的な深い学びの促進を図る。学校の授業だけでなく、自宅での活用も可能となる。（令和5年～7年度） ・教員の指導力向上を図るための研修会の開催。（令和5年～7年度） ・実践事例の共有と各校へのICT支援員、指導主事のサポートの充実。 ・令和8年度には、学習者用端末(Cromebook)の更新を行う予定。 【R 5 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・現在導入している授業支援ソフトを引きつづき活用し、授業改善を促進するとともに、児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる活用（自分の考えをまとめるノート、意見を共有、発表するツール、教材やワークシートの配布による自宅学習）を促進する。 ・教員の指導力向上を図るため、I C T 支援員、導入業者と連携して研修会を行う。 ・特に積極的に活用を進めている学校の実践事例を全校で共有し、全ての小中学校での活用を推進する。
R 5 年度の事業費（内訳）	
授業支援ソフト GIGAスクール自治体プラン 利用料 15,984,100円 1ライセンス¥1,000/年 小学校 児童数9,606名、中学校 生徒数4,925名（夜間学級含む） 計 14,531名分 （見積書より）	

R 6 年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
（令和6年度） 授業支援ソフト 利用料 15,984,100円 （児童9,606名、生徒4,925名 合計14,531名分） （令和7年度） 授業支援ソフト 利用料 15,984,100円 （児童9,606名、生徒4,925名 合計14,531名分） （令和8年度） ※学習者用端末の更新を行う予定のため、未定	全国学力学習状況調査・質問紙調査 「学級の友達と意見を交換する場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」、「自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか？」 上記2つの質問について、「週1回以上と答える児童生徒の割合を令和6年度調査（4月実施）で70%以上とする」	・学校現場での実態調査を行い、利活用の改善点について再整理する。 ・以下の質問について、令和4年度週1回以上と答えた児童・生徒の割合：「学級の友達と意見を交換する場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」（小45.2%中48%）「自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか？」（小42.5%中42.8%）

【R5年度】重点目標の取組・ロジックモデル（授業支援ソフトの導入[ICT教育推進事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

学習支援ソフトを導入している府下の市町村

ロイロノートスクール導入市：池田市、枚方市、寝屋川市、交野市、東大阪市、河内長野市、松原市、泉大津市、貝塚市

その他のソフトウェア：SKYMENUCLASS（藤井寺市）、オクリンク・ミライシード（高槻市、守口市、高石市、泉南市）、Chieru授業支援、スクールタクト、tomoLinks（箕面市）

【R 5 年度】重点目標の取組・評価シート①（授業支援ソフトの導入）

担当課（内線）	学校教育課（5616）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	データを活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 授業において、意見交換やまとめ発表などでのICT機器の活用を促進し、主体的・対話的で深い学びの実現を進める（週1回以上、90%以上）

■ R 5 年度において実施・実現できたこと

- 教員の指導力向上を図るための研修会を数回開催し、のべ200人の教員が参加した。（令和5年）
- ICT支援員を5名配置し、各学校での支援を充実させた。（令和5年）

■ R 5 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 教員の指導力向上を図るための研修会の開催（令和5年～7年度）
- 実践事例の共有と各校へのICT支援員、指導主事のサポートの充実

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 5 年度実績値
○	各学校への情報活用調査より『学習者用端末をよく「意見等の比較・検討（他者の意見参照等）」の場面で使用している。』『学習者用端末をよく「まとめ・表現」の場面で使用している。』と回答した学校の割合	%	—	70%以上（R 6）	各学校への情報活用調査より『学習者用端末をよく「意見等の比較・検討（他者の意見参照等）」の場面で使用している。』（74%）『学習者用端末をよく「まとめ・表現」の場面で使用している。』（68%）
○	教員の I C T 研修への参加者数	人	—	—	200人
○	各学校への情報活用調査より『学習者用端末の活用頻度について、毎日、おおよそ1つ以上授業で活用している。』と回答した学校の割合	%	—	—	68.5%

【R 5 年度】重点目標の取組・評価シート②（授業支援ソフトの導入）

■ R 5 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 特になし

■ 課題分析

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ 「ＩＣＴ機器の授業での使用割合」について子どもたちの授業での使用調査は、各学校へ行っている情報活用調査より『学習者用端末の活用頻度について、毎日、およそ1つ以上の授業で活用している。』と回答した学校の割合から経年比較できることから指標名を変更する。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 令和5年度は教員の指導力向上を図るため研修会を数回開催したが、より教員が求める研修を把握し、教員のニーズに沿った研修を令和6年度に開催していく。